

1

はじめに

1.部長挨拶

この度は2023年度一橋大学鉄道研究会研究誌をお手に取っていただき、ありがとうございます。私は本年度会長、稲垣佑一と申します。部を代表してご挨拶申し上げます。

今年度私たちは研究のテーマに「観光」を取り上げます。これは単純にコロナ禍で一番影響を受けたことだけを理由とするものではありません。同じくコロナ禍で活動が止まり、そしてやっと活動を再開できた私たちと重ねるものとして部会で私が提案し、採択されたものにございます。私たちの活動は趣味を起点に仲間を作ることでした。しかし、鉄道旅行では一人でも行えること、メインの活動であった部の旅行と一橋祭での展示が取りやめになったことで集まる機会そのものが失われました。されど、良くも悪くも社会は変化するものです。ようやく私たちは通常通りの活動を再開することができました。私たちのこの研究誌は対外的には連綿と続く一橋大学鉄道研究会と如水鉄路クラブの伝統の1ページにすぎません。しかし、私たちは活動再開の証としてこれをお披露目できたことを嬉しく思います。

改めて、この研究誌のテーマを申し上げますと「観光」です。コロナ禍で始まったもの、消えたもの、今の観光のトレンドをいくつかの観光列車や観光地に赴いて観察させていただきました。観光地や鉄道会社の戦略とそれに対する市民の動向まで分析できたら至上の喜びですが、果たしてどこまで考察できましたでしょうか。私たちの見聞のまとめとしてこの研究誌を残します。もし分析不十分な点がありましたら、是非とも議論致しましょう。

この研究誌の構成は以下の通りとなっています。第1,2章において目的定義と実際の様子について説明し、第3章にて文献と第2章を参照しながら観光地や鉄道会社における観光列車の価値を分析し、第4章の提言に繋げていこうとするものにございます。多種多様に広がる観光地とそれを支える観光の価値という1本の太い幹を描き出すことができたら幸いです。

末筆ながら、本研究や一橋祭の展示、活動の再開にお力添えをいただいた如水鉄路クラブの皆様、そしてこの研究誌をお読みいただく皆様に篤く御礼申し上げます。

2023年度 一橋大学鉄道研究会 会長
社会学部4年 稲垣佑一